

南京 1937 名古屋証言集会

日 時 2010年12月11日(土) 午後2時～4時半

会 場 椙山女学園中学校・高等学校(千種区山添町2-2)

地下鉄東山線(「覚王山駅」4番出口より南に徒歩7分)

集会内容

1. 講演 林 伯耀さん 「中国人と日本人の過去の戦争に対する見方
考え方」

2. 証言 郭 秀蘭さん 南京大虐殺幸存者

入場料 高校生無料 大人1000円

戦争末期、大府飛行場の拡張工事に動員された中国人のうち5名が死亡しました。この慰霊祭が9月18日東海市の玄猷寺で営まれました。最後に挨拶された主催者代表の一人である池田陸介さんは友好について“親戚づきあいをするこ
と”と言われました。

アメリカ軍は沖縄で親戚づきあいでも近所づきあいでもなく、占領軍として振舞っています。沖縄沖公海上の中国海軍の航行や尖閣諸島(釣魚島)沖での中国漁船と海上保安庁巡視船との衝突という「いざこざ」を機に、抑止力としてのアメリカ軍の必要性や自衛隊の配備強化が叫ばれます。

「いざこざ」が米軍基地や自衛隊増強を求める動きに拍車をかけるからこそ、親戚づきあいや不断の友好が求められます。「災い転じて福となす」、「前事不忘、後事之師」、これが友好や外交の要です。

来日の南京大虐殺の幸存者(生存者)は皆、証言集会の最後に、“南京大虐殺を知って欲しい、そして二度と戦争をしないように”と訴えていました。

講師の林伯耀さんは花岡事件の被害者への聞き取り調査や南京大虐殺の調査証言活動に取り組んできました。友好とは何かを語ってもらいます。

今年の名古屋証言集会も椙山高校を会場とし、開催することになりました。

<ノーモア南京>名古屋の会 平山良平